

経済

くまもととニュースあらかると

“幻のカキ” 53年ぶり  
クマモト・オイスターが復活

— 県内に1万個を試験出荷 —



マガキの半分ほどの大きさだが、濃厚で甘い味わいが特徴



14日にJR熊本駅構内の「大漁食堂HERO海」で行われた出荷式。生産者の山崎昭夫さんがクマモト・オイスターを直接配達

アメリカなどで高級カキとして人気が高く、県がブランド化を目指して試験養殖に取り組んでいる熊本産「クマモト・オイスター」の試験出荷が3月14日に始まった。  
09年に熊本県水産研究センターが種カキの大量生産に成功し、10年2月から県内10カ所の生産者の元で養殖試験を開始した。今回出荷されたのは天草市新和町・御所浦町、上天草市大矢野町、天草郡苓北町で養殖に成功した6業者のカキ。出荷量は1万個で、3月31日まで飲食店約50店など県内の



▲海外では「カキの女王」「幻のカキ」と評され、人気が高いという  
▲試食した蒲島郁夫知事は「味が濃くておいしい。原産地である熊本で復活した意義は大きい」と話した

くまもとを元気にする FACE  
川中 道夫さん(61)  
九州中央魚市 社長  
(熊本市田崎町)  
マルハニチログループの規模を活かして経営を効率化、収益力強化に取り組んでいます。県民の“食の台所”として、地域への安定供給・価格の適正化という使命を果たしていきたい。市場内に食事処をつくるなど、じかに魚の美味しさを伝える場を作りたいですね。

くまもとを元気にする FACE  
竹田 晴生さん(61)  
宇賀岳病院 副院長  
(松橋町松橋)  
2月に副院長に就任しました。当センターを訪れる宇城地区からの糖尿病患者は増加傾向にあり、生活習慣病教室などの啓発活動もより積極的に行っていく必要性を感じています。内科系を専門とする副院長として外科系の院長とともにバランスのとれた運営を行ってまいります。

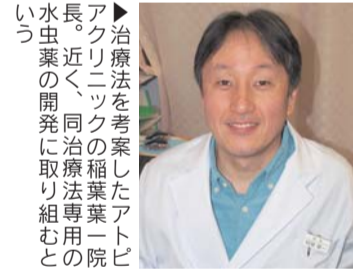
くまもとを元気にする FACE  
神井 真名さん(37)  
ナチュラルアース 社長  
(荒尾市内宮内)  
アロマサロン「プレムクレアート」を熊本市大江6丁目にオープン。コンセプトは体だけでなく心も癒やすこと。施術を通じ、お客さまが抱える悩みやネガティブな習慣から開放し、表情や性格も明るくなってもらいたいです。

くまもとを元気にする FACE  
浦野 知さん(46)  
ペコIPMパイロット 代表・農学博士  
(熊本市新町4丁目)  
農業における病害虫管理の調査・研究やデータ解析、またこうした調査・研究や統計解析をもとにした病害虫のリスク管理までを提案する事業を行っています。農家からのご相談やリスク管理のご提案などにも取り組みながら、よりよい農業のための支援につなげたいですね。

くまもとを元気にする FACE  
堤 千夏さん(32)  
現代 取締役  
(熊本市大江4丁目)  
3月にゆめタウンサンビアン内にカレー専門店「カレーハウス ついんくる」をオープンしました。ワンコインでしっかりしたランチをコンセプトに、女性が一人でも気軽に来店できるような店作りをしています。ぜひ、お気軽に足をお運びください。

くまもとを元気にする FACE  
福岡 夏織さん(28)  
リスタ熊本 スタッフ  
(熊本市馬渡2丁目)  
事務用品から家具まで質の高いリサイクル品を取り扱っています。中古ビジネスフォンやコピー機、業務用エアコンなど品揃えはバラエティ豊かです。3、4月は人が動く時期で繁忙期になりますが、あらゆる業種の企業のお役に立てるとお思います。

熊本版  
コロンブスのたまご  
～新規事業への挑戦～



▲足の親指にキャップを貼り、中に水虫薬を注射する。副作用がなく、誰でも治療が可能で、治療中に靴を履くこともできるという

アトピアクリニック

治療法を考案したアトピアクリニックの稲葉一院長。近く、同治療法専用という

新たな爪水虫治療法が熊本から世界へ  
爪に貼る「キャップ・オン・ネイルセラピー」  
爪白癬とは足の爪の間に白癬菌が繁殖する状態で爪水虫とも呼ばれる。現在、治療は内服薬がメインとなっているが新治療法は液体の水虫薬を入れるキャップを取り付けて薬を注入し、24時間後にははずすというもの。患部である爪から直接浸透させるため、誰でも治療が可能で、飲み薬の約100倍量の薬剤を爪の中に入れることができ、月1回の治療を半年間続ければ白癬菌を死滅させることができるという

「爪白癬（はくせん）治療に新たな概念を作った」とはアトピアクリニック（菊陽町辛川）の稲葉一院長。爪白癬の治療法「キャップ・オン・ネイルセラピー」を開発した。

ベアバレーにガラスの橋とくまの洞窟をオープン  
▲3月18日に開かれた新施設の発表会  
小笠原徹郎社長



阿蘇市黒川の阿蘇カントリー・ドミニオンを運営する(株)阿蘇熊牧場（同市、小笠原徹朗社長）は3月19日、クマの展示施設「ベアバレー」内に「ガラスの橋」と「くまの洞窟」をオープンした。  
全く新しい展示コンセプトのもと、世界的にもユニークな展示空間としてリニューアルしたものの、ベアバレーの中央部に架かる「ガラスの橋」は側面が透明のアクリル板、床面が透明の超強化ガラスになっており、クマたちが住むベアバレーエリアの空中散歩を楽しめる。また、「くまの洞窟」では至近距離でクマたちの生態を窺うことができるほか、洞窟内にはクマの冬眠や出産に関する展示物やスピーカーによる演出なども用意され、より身近にクマたちの生態に触れることができる施設としてオープンした。